

いなべ市行政改革推進委員会 会議録

会議名	第7回いなべ市行政改革推進委員会
開催日時	平成26年8月7日(金) 14:30~16:00
開催場所	いなべ市役所員弁庁舎 東館第7会議室
出席者	<p>【委員】5名(欠席:松井真理子、片山純裕) 丸山康人、堀 誠、松葉まち子、小林久里子、八田栄子</p> <p>【説明者等】14名 (副市長、企画部長、総務部長、市民部部长、都市整備部長、健康こども部長、福祉部長、建設部長、農林商工部長、水道部長、総合窓口部長、教育部長、職員課課長補佐2名)</p> <p>【事務局】4名 (政策課)</p>
会議次第	<p>1. 会長あいさつ</p> <p>2. 審議事項 ・第2次行政改革大綱素案について</p>
配布資料	・第6回行政改革推進委員会会議録 別冊 いなべ市行政改革大綱素案
公開、非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0人

議 事 概 要

※会長あいさつ

【会長】

行政改革大綱素案について説明を求める。

【事務局】

別冊「いなべ市行政改革大綱素案」より説明

【会長】

皆さんから議論をいただき、最終的にこのような形になってきた。次回答申するにあたり、委員のみなさんに意見をいただきたい。

【委員】

素案の中で「必要があります」という言葉がよく出てきて、耳障りかと思う。「行政」が主語になっていると思うが、タイトルに「必要性」と書いている以上本文ではあまり言及しなくてもいいのではないかと。

また、9ページの「行政改革効果額一覧表」というところで職員の給与が示されているが、後ろのページの記述に臨時職員の増加が問題だと記述されている中で、臨時職員の人件費も含めた形で給与を示してはどうか。

【会長】

先程の発言は、その表では全体を表せていないのではないかとということだと思う。では、一つの「必要がある」の文言については事務局で検討をお願いしたい。聞き心地のいいようにして

いただければと思う。二つ目の職員の給与について、都合のいいものだけを出しているのではないかという意見であったが、この点に関して事務局に説明を求める。

【事務局】

9頁の記述については、第1次行政改革大綱の中の取り組むべき事項の中で正規職員の定員管理の推進というところで取り組みを進めているが、その影で臨時職員が増加しているということがある。その関係については、14頁の簡素で効率的な行政システムの構築にもあるとおり、計画以上の職員数の削減となったため、その分を非常勤職員の採用で補っている面がある。この第2次行政改革においては、非常勤職員を含めた適正な任用管理を行っていく旨を説明。

【委員】

3頁のいなべブランドの確立というところで、「いなべブランドと呼べるような品質の高い事業がつくられてきました」とあるが、一般的に「ブランド」というと品物とかキャッチフレーズをイメージするが、そのイメージと「いなべブランド」のイメージは違う気がする。

【会長】

「いなべブランド」に関する認識が市民に浸透していないということはあると思う。もう少し市民への周知を徹底することを方向性として盛り込むことも大切だと思う。一般市民の認知度が低い以上、こうやって計画の中にいきなり「いなべブランドの推進」と出てきても理解が得られない。

【委員】

実際にいなべ市に住んでいる立場からすると、ここに掲げられている事業は「そうだよね」というものが多く、「いなべブランド」という言葉を冠することに疑問を感じる。どこの市でもやっていることではないかと思う。

【会長】

普通にやっていることを「いなべブランド」にしているということであろう。

【委員】

もう少しインパクトのあるキャッチフレーズが必要ではないか。普通の書き方ではどこの自治体でもやっていることだと感じてしまう。また、3頁の「いなべブランドの確立」という文章のうち半分を人口減少や担い手不足、空き家の増加といった暗い言葉が占めているため、具体的にわかりやすい文章にしてもらった方がよいのかなと思う。

【委員】

私は少し違った見解を持ってまして、ブランドには攻めと守り、あるいはプロアクティブ（先を見越した行動）といった言い方が適切でしょうか、住みよいまちづくりに向けて社会福祉を手厚くしますといった攻めのブランドの姿勢がある。これから先10年を見ると、人口は減少し高齢化も進むと考えられるので、それに対してどう構えていくかというところがひとつのブランドとしてしっかり光を当てていかなければならないと思う。

そういう面からすると逆に5頁に書いてあるようなことはどちらかというバラ色に近いような社会・福祉・住みよいまちづくりといったところだけが強調されたような感じなので、影の部分もセットで先の部分を見た手を打っていくことが必要だと思う。

【委員】

「課題に取り組む必要があります」というよりも、もう少し一歩前向きな行動を起こしますといった書きぶりの方がよいのではないか。

【委員】

ブランドというのは生き物のように時代や環境に応じて変えていかなければいけないし、変わっていかねばならない。決して固定的なものではない。何年か前に決めたから後生大切に守るといったものではない。

【会長】

ブランドという発想は非常にいいと思うが、仕組みや今後の制度を時代に合わせながら市民と共に外部へアピールしていったなおかつ市が元気になるような仕組みづくりができあがるような形があるかどうかということが大切だと思う。ブランドだけが先行しているように思う。これをもう少し積極的に位置づけていった欲しいということである。

【委員】

「必要があります」にこだわるようだが、語感が弱く感じる。「必要があります」ではなく、「取り組みます」や「取り組まなければなりません」の方がよいのではないか。

【事務局】

今ブランドに掲げている事業は確かにどの市町でもやっているような事業と思われるかも知れませんが、実はその内容を見ると少なくとも三重県トップクラス、項目によっては全国トップクラスに位置されているものをブランドとして発信しており、それをまとめたものがこの冊子になります。他市町でもいなべ市と同じ水準まで達しているところは少ないということで、その点をいなべブランドとして出したいというところが一つあります。また、3頁「いなべブランドの確立」のところで、人口減少に伴い発生する課題についての記述があるが、いなべ市としてもこれからの話です。具体的な話としてはいなべ市を中心とした定住自立圏構想というものがあります。この中で、人口を維持する・減少を抑えるということを目的として活動を始めています。一例として、グリーンツーリズムという市内の空き家や耕作放棄地を活用して都市部の方から交流を通じて定住を増やすという取り組みを行う予定です。

大綱に書けるかということは検討しなければなりません、前向きな形で今後10年の大綱にも示せるようにしていきたいと考えている旨を説明。

【会長】

少し表現方法については前向きな形で書けるようにしていただきたいし、私としてはいなべブランドの取り組みは気に入っているの、単にいいものがあるというだけでなく今後の交流人口・定住人口を増やしていくといったもっと積極的な意味合いを含んでブランドづくりという位置づけにしているということで、その点についてもう少し記述していただければと思う。

一つ聞きたいこととして、いなべブランドの推進ということに対して役所の中の仕組みはどうなっていますか。

【事務局】

各課から代表者を集めてプロジェクトチームをつくって取り組んでいる旨を説明。

【委員】

何点か確認・提案がありますが、いなべ市ではPDSサイクルを運用して目標管理に取り組んでいるということであるが、この第2次行政改革の成果をしっかりと出すには大綱といえどもある程度の定量的な目標を定めるべきではないかと思う。いわゆるKPI(Key Performance Indicator=重要業績評価指標)を定めて、それに向けてできたか、できなかったかを量ることが必要じゃないかと思う。例えば平成36年度のプライマリーバランスの中で10億円の赤字になっているがこれを何とか食い止めるといったいわゆるキーになる目標を設定し、いろいろなセクションでその目標を達成するために具体感を持ってPDSサイクルを回していくべきではないかと思う。

【事務局】

羅針盤となる目標を設定してはどうかという意見をいただいたが、できる範囲でそのあたりを明記させていただきたい旨を説明。

【委員】

また、行政改革をやっていくこの10年間でヒト・モノ・カネがかなり流動化して活性化することが予想されます。その一方でコンプライアンスをしっかりとやっていく必要があると思うが、そのための仕組みや教育が重要になっていくと思うのですが、この大綱ではあまり触れられていないように感じる。コンプライアンス意識についてはどう考えられているのか。

【事務局】

16頁に「法令遵守による行政執行の徹底」については、コンプライアンスの徹底の一例として6年ほど前より文書管理にファイリングシステムを導入して取り組んでいる旨を説明。

【委員】

関連して、16頁「法令遵守による行政執行の徹底」には監査機能についての言及がないが、検証や監査はどのようにやっていくのか。

【事務局】

企画部の中に法務セクションがあり、その中で確認をしながら管理している旨を説明。

【委員】

監査機能を持った組織を設けるといったわけではないのか。

【事務局】

予算執行については監査事務局というセクションがあり、第三者によって監査が行われている旨を説明。

【委員】

15頁に新総合計画の策定について記述されているが、なぜ新計画の策定に2年を要するのか。なぜ1年ではできないのか。2年間の必然性があるのか。

【事務局】

28年度で第1次総合計画が満了を迎え、第2次総合計画の運用が開始されるため、早めに準備を始めている旨を説明。

【委員】

新庁舎ができるが、いざというときのために備えのために市役所を活用されるということであるが、市民が集いやすい環境をつくるためにコンビニといったものは庁舎に入るのでしょうか。

【事務局】

コンビニになるかは未定であるが、市民も活用できる利便性の高いものをつくっていきたいと考えている。庁舎内か敷地内に建てるかということは未定の段階である旨を説明。

【委員】

14頁に「行政評価を活用した事務事業の改廃と資源の最適配分が不可欠」とあるが、行政評価を活用するということはどういった尺度、どういった評価をするということなのか具体的に教えていただきたい。

【事務局】

行政評価自体は、施策評価及び事務事業評価ということで各事業に対して評価を行っている。事業ごとに、実績面、コスト面から ABC といった具合に評価を行っている。その中で改善すべきものは改善を図り、事業によっては配分が変わってくるものもある。こういった制度を活用していきたい旨を説明。

【委員】

これは市長が直接評価を行っているのか。

【事務局】

評価は各担当部署で行っているが、今おっしゃられた外部評価や内部全体の評価といったものも参考にすべきではないかと考えている旨を説明。

【会長】

行政内部に評価委員会はあるのか。

【事務局】

現段階では評価委員会は設けていない旨を説明。

【会長】

ではその行政評価は誰が最終的にチェックするのか。

【事務局】

各担当部長がチェックしている旨を説明。

【委員】

例えば県などでは第三者がきちんと検証していると聞いているが、その点についてはどうか。

【事務局】

そのあたりについては今後勉強させていただく旨を説明。

【会長】

最終的にどこかチェックできる組織は必要だと思う。現在はおまかせ式になっているということであるが、これでは評価になりづらいと思う。

【委員】

16頁の新庁舎建設による窓口サービスの充実について、内容は当然として、職員の対応マナーの向上という点も入れていただきたいと思う。ハコが新しくなったら内容も向上したいというところがあり、世間の接客に対するレベルが高くなっている中で、市役所もそれにならっていかなければならないと思う。新庁舎建設にあわせて、対応マナー研修のようなものも入れていただきたいと思う。市民はこういった目に見えるところで判断することが多いと思うので、そういった点も取り組んでもらえればありがたいと思う。

【会長】

接遇の向上という点を文言に入れてくれということだと思う。

【事務局】

多種多様な要件で庁舎に来られる市民のプライバシーの点から考えると、現在の庁舎はフルオープンになっており、個人情報保護という観点からも今後改善できるよう検討を進めたい。あわせて、市職員のプライバシーも守られるようにしていきたい旨を説明。

【委員】

6頁の進行管理の手法について、年に一度市のホームページで市民に公表とあるが、どのような形で公表していくのか。

【事務局】

集中改革プランの確認・実績を毎年反映して、年度ごとにずっと見られるように公開していく。例えば委託料の削減であったら具体的にどの段階の委託料が削減されたかなど事業ごとに公開していく旨を説明。

【委員】

今いなべブランドの見直しをしている中で、子育て事業の面ではすごく目につくが、ある程度年齢の高い、小学生中学生などのサポートにも力を入れてもらえればと思う。

【事務局】

子育て支援の環境整備ということについては段階的に分かるように方向付けしながら取り組んでいきたいと思う旨を説明。

【委員】

藤原地区では将来的に小学校が統合されることで体育館がいくつも空くことになると思うが、そのあたりの計画はどうなっているのか。また、現在大安に子どもが増えているという現状からいなべ市全体で何かされることは考えられていますか。

【事務局】

今教育委員会では、第1次行政改革大綱に則った施設の統廃合という中で少人数学校の再編に取り組んでいるが、施設については5つが1つになるため、残った施設の有効利用の問題がある。老朽化した施設は廃止されていくことになるが、藤原地区の場合は地域の人たちと話をしていく中で今後どうしていくかという方向性を見つけていければと思っている。ただ、地域で長い間培ってきた小学校であり、すぐに結論が出る性質の問題でも無いため長期的な視点で取り組んでいきたい旨を説明。

【委員】

行政改革というのはバラ色のものだけでなく痛みがセットで伴うものだと思う。今回は素案の審議ということであるが、早い内に今後10年間のロードマップを示すべきだと思う。バラ色でよくなる部分はこうだが、反面こういったネガの部分もあるといった「見える化」を進めていく必要がある。

【会長】

今回は大綱素案ということだが、実施計画の段階において今後の計画をどうやって進めていくかというしっかりとしたロードマップ・スケジュールを示されることだと思う。その部分はしっかり示していただきたいと思う。

【会長】

本日いただいた意見を基に事務局で修正させていただいたものを私が責任を持って見させていただく。それを皆さんに送付させていただいて見ていただく形で答申に繋げていきたいと考えている。それと今後の実施計画の策定に関連する話になるが、現在第2次いなべ市総合計画の策定が進行している。この行政改革を評価する段階において、総合計画と行政改革の数値目標や指標がズレていると、評価がとてもしづらいものとなる。その点において、数値目標と行政改革が矛盾しないように数値目標を一致させるよう努めていただきたい。法令に基づく各個別計画についても視野に入れながら調整をしていって欲しい。

また、合併して昨年で10年を迎えたが、合併にあたってはさまざまな調整が必要で、当時は

いろいろな約束ごと・しがらみがあったと思う。しかし、合併して10年が経過した今、そのような約束はそろそろ無くしていかなければならない。ひとつの「いなべ」としてのルール作りを進めていかなければならない。

この春、消滅自治体の話が話題になったが、役所の仕組みをどう作るのかということを考え始めなければならない。若い女性が流出すると、人口が増加することはない。役所の職員も何%かは女性を確保していこうといった仕組みを考えていかなければ、子どものいない社会になってしまう可能性がある。そういったこともしっかりと位置づけて欲しいと思う。

【会長】

答申はいつであったか。

【事務局】

次回の答申は10月頃を予定していることを説明。

【会長】

最後に何か言っておきたいことはあるか。

【委員】

女性の活用についてであるが、子育てについてはいなべブランドで取り組まれているが、お膝元の市役所職員の女性比率であるとか、管理職の女性比率といったものを率先垂範で積極的に高めていくことは大切だと思う。

【委員】

母親視点で中学校の教育環境を考えたときに、やはりいなべよりも桑名・四日市がよいといわれる方が周りに何人もいる。人口を増やしていくためには母親目線に立った政策への取り組みが必要ではないかと思う。

【会長】

議論はここまでにして事務局にお返しする。

【事務局】

次回は10月ごろに大綱を答申いただく旨を説明。

※閉会

そ の 他 事 項